

「 ふくおかきっずアドベンチャーキャンプ 」

～ 第3回 フォレストキャンプ ～

- 1 趣 旨 福岡県内に住む小学校3・4年生の児童を対象に、各青少年教育施設での特色を生かした自然・生活体験と「鍛ほめ福岡メソッド」を位置付けたプログラムを経験させることを通して、自尊感情や向上心、困難に立ち向かう心等を伸ばし、自律的に成長させるための基礎を養う。
- 2 主 催 福岡県国公立青少年教育4施設連携協働事業実行委員会
国立夜須高原青少年自然の家 福岡県立社会教育総合センター
福岡県立英彦山青年の家 福岡県立少年自然の家「玄海の家」
- 3 主 管 福岡県立社会教育総合センター
- 4 期 日 令和3年12月11日(土)～12月12日(日) 1泊2日
- 5 場 所 国立夜須高原青少年自然の家
- 6 対 象 福岡県内に住む小学校3・4年生の児童 計24名
- 7 参加者 21名(小3:4名、小4:13名、学生ボランティア4名)
- 8 日 程 ○12月11日(土)
出会のつどい、昼食(レストラン弁当)、夜須高原ポイント0L、オリエンテーション、夕食(レストラン)、天体観測、ナイトハイク
○12月12日(日)
朝のつどい、朝食(レストラン)、野外調理(カレーライス)、ふりかえり、アンケート記入、別れのつどい

9 活動の実際



【出会のつどい】



【人間関係作りレクリエーション】



【ポイント0L】



【ポイント0L】



【天体観測】



【ナイトハイク】



【野外調理】



【別れのつどい】



【集合写真】

10 感想

- おもしろかったし、自然はきれいだと思います。
- 星がとてもきれいでした。
- 友達は、こんなに簡単にできるものなんだなと思いました。自然はきれいだなと思いました。
- いろいろな植物がわかりました。
- 誰とでも友だちになれることがわかりました。
- 夜須高原はふつうの森だと思っていたけど、夜須高原に来て、夜須高原はとっても広い森なんだと思いました。
- もう少し、迷惑な人などを注意してほしい。

11 成果

- 出会いのつどいで、事業の趣旨と活動について、「めあて」「その達成のためにがんばること」として、写真や図を使って具体的に説明した。また、1日目の最後に活動の振り返りを行い、2日目の「自分のめあて」を決めさせた。そのため、参加者たちは2日目の活動にも大変意欲的に取り組むことができた。
- 人間関係作りレクリエーションや夜須高原ポイントオリエンテーリング、グループごとに並んで歩くナイトハイク、野外調理などグループ活動を多く取り入れた。そのため、グループ活動の楽しさや協力するよさを学ぶことができた。特に野外調理は、グループで話し合って役割を決めたり、お互いの作業を手伝ったりするなど、グループ内で声を掛けあって活動する場面が多く見られた。
- 学生ボランティアと事前ミーティングを行い、参加者とのかかわり方や注意する点を確認した。また、4つの班があったが、それぞれが担当する班を固定しなかった。そのため、ボランティアが多くの参加者と関わり、参加者の特性やその時の様子をみながらよりよい関わり方をすることができた。
- IKR調査を実施したところ、「生きる力」の変容は15.3ポイント、「心理的社会的能力」の変容は7.9ポイント、「徳育的能力」の変容は4.0ポイント、「身体的能力」の変容は3.4ポイントそれぞれ事前から事後にかけて向上した。よって、参加者にとって有意義な活動となったことが分かった。

12 課題

- 福岡県立3施設との共催事業として実施した。参加者はいずれも同じで、第1回は9月に「玄海の家」で実施だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止、第2回は、10月に日帰り二日間で「英彦山青年の家」で、第4回は日帰り1日で社会教育総合センターで実施の予定である。今年度からの取り組みなので、4施設の連携・協働体制のあり方、事業の趣旨の確認や参加者の活動内容の検討など、来年度に向けて検討する必要がある。
- 抽選により参加が決定した24名のうち、7人が欠席であった。1人はけがのためだが、6人は第2回も欠席している。全てのキャンプに参加できることが申し込みの条件であったので、参加者の決定の仕方について検討する必要がある。